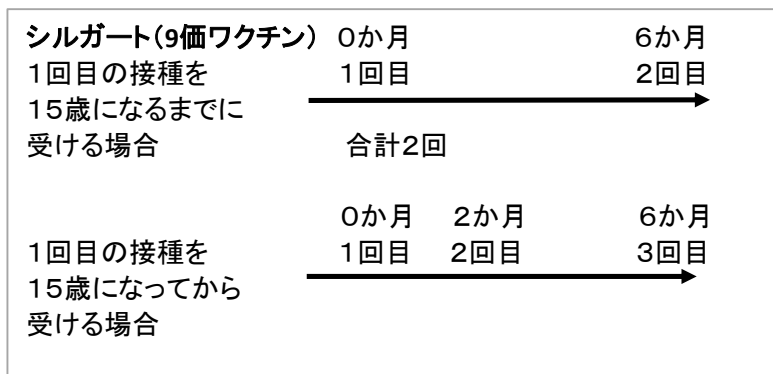


接種できるワクチンの種類と主な副反応について

	サーバリックス(2価)	ガーダシル(4価)	シルガード(9価)
予防できる HPVの型	16型, 18型 (主に子宮頸がん)	16型, 18型(主に子宮頸がん) 6型, 11型(主に尖圭コンジローマ)	6型, 11型, 16型, 18型, 31型, 33型, 45型, 52型, 58型 (子宮頸がん, 外陰上皮内腫瘍, 膣上皮内腫瘍, 尖圭コンジローマ)
接種方法	0.5mlを筋肉内に注射する		
接種間隔	初回を0月として以後1ヶ月 後, 6ヶ月後の 計3回	初回を0月として以後2ヶ月後, 6ヶ月後の 計3回	決められた間隔をあけて, 合計2回 または3回接種 * 下記参照
主な副作用	痒み, 注射部位の痛み・赤み・腫れ, 腹痛, 筋痛・関節痛, 頭痛疲労 など		

*



その他の注意点

- ※痛みや緊張によって接種直後に一時的に失神や立ちくらみ等が生じることがあります。接種後30分程度は安静にしてください。ワクチンを受けた日は激しい運動はやめてください。
- ※HPVワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。まれに、重いアレルギー症状や神経系の症状が起こることがあります。また、広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、動かさそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうといったような症状が報告されています。
- ※接種後に体調の変化が現れたら、接種を行った医療機関の医師にご相談ください。
- ※新型コロナワクチンを接種する場合は、HPVワクチン接種の前後2週間以上あけてください。

問い合わせ先
川崎町保健センター TEL0947-72-7083